

ケステンバーグムーブメントプロフィールにおける シェイプフローデザインの位置づけと今後の課題

崎山 ゆかり（武庫川女子大学短期大学部 幼児教育学科）

キーワード： ケステンバーグムーブメントプロフィール、シェイプフローデザイン、ITサポート

はじめに

主として欧米のダンス・ムーブメントセラピーにおける動きの分析・評価は、Labanの運動分析を中心になされている。この他に、乳幼児の発達支援のために、ケステンバーグムーブメントプロフィール(KMP)などが用いられている。KMPは、対物・対人の自然な動きをビデオから分析する複雑なツールであり、汎用化のための課題は多い。9つの分析カテゴリーから構成されるKMPにおいて、空間の用い方のパターンを示すと言われるシェイプフローデザインは、KMPの分析結果を示すダイアグラム作成の分析カテゴリーや、記譜の手技を学ぶトレーニングから除外されてきた。しかし、最新のKMPのテキストとなる中心的文献¹⁾においても、分析手法上の問題点が指摘され、その解決のための将来に向けたビジョンが示唆されている。

そこで本研究では、シェイプフローデザインが分析対象から除外されてきた理由を文献から探り、KMPにおけるシェイプフローデザインのカテゴリーの位置づけを明らかにする。そのうえで、KMPや情報工学の専門家との協働によって、シェイプフローデザインをダイアグラムに組み込むための方途につながる解決策について検討していく。そして、今後の研究課題として、KMPの自動化のための具体的なプランを新たに提示することを目的とする。

KMPの概要

エフォートとシェイプから成る2つのシステム(系)が、9つの分析カテゴリーを構成している。カテゴリー毎に観察対象となる動きの要素があり、合計数は62である。さらに、要素は具体的な動作として分類されており、全体の動作数は120となる。現在、シェイプフローデザインを除いた8つの分析カテゴリー毎に、ビデオ観察から動作数を数え、規定の換算式からグラフ(ダイアグラム)を作成し、診断や今後の介入の指針に役立てている。

表1 KMPの概要

系	原語	日本語訳	要素数	動作数
I	Tension Flow Rhythms	テンションフローリズム	10	16
	Tension Flow Attributes	テンションフロー特性	6	12
	Precursors of Effort	前駆エフォート	6	12
	Efforts	エフォート	6	12
II	Bipolar Shape Flow	両極性シェイプフロー	6	12
	Unipolar Shape Flow	単極性シェイプフロー	10	20
	Shape Flow Design	シェイプフローデザイン	6	12
	Shaping in Directions	方向性シェイプ	6	12
	Shaping in Planes	面性シェイプ	6	12
2		9	62	120

シェイプフローデザインについて

観察対象者の空間の使い方を分析するカテゴリーである。分析カテゴリーとしての解釈としては、個の関係性と関係する事物への感情の形式、かかわりにおけるマナーの形式として捉えられている。(1) 動き手を取り巻く個人的空間、(2) 動き手の身体から離れるか近づくかの空間的筋、(3) 動きを特徴づけてデザインする要素、の3つの視点がある。これら全ての項目をまとめたものが表2、除外の理由と将来へのビジョンを表3に示した。

表2 シェイプフローデザインの全体像

空間の使い方	キネスフィア 個人の身体を取り巻く空間	
Near Space	身体に近い空間で四肢の伸展はなく、しぐさに用いる空間	
Intermediate Space	NearとReachの中間の空間で、多くの日常動作を行う	
Reach Space	出来るだけ身体から離れた空間で、身体運動を活発に行う	
空間的筋	自身の身体を基準とした動きの方向性	
Centrifugal Movements	対物および対人に向かう遠心性の動きの筋	
Centripetal Movements	自身の身体にふれる求心性の動きの筋	
要素	ダイアグラム作成につながる動きの要素	
動きの経路	Looping 輪のような動き	Linear 直線的な動き
遠心性及び求心性の動きの回避サイズ	Low Amplitude 動きの振幅が小さい	High Amplitude 動きの振幅が大きい
動きの反転の様子	Rounded Reversal 丸みを帯びて調和	Angular Reversal 鋭角的で不調和

表3 シェイプフローデザイン
除外の理由と将来へのビジョン

二次元の動線で三次元の動きを捉えることは困難なため、観測者間の信頼性は低い。したがって、シェイプフローデザインをダイアグラムには用いない。(The meaning of Movement, Developmental and Clinical Perspectives of the KMP, 1999, Introductionより)

文化的状況、生得的な嗜好性、発達段階、状況により影響を受ける。(Loman & Sossin 2009)

シェイプフローデザインは、特に今後の研究が必要な領域であり、異文化間や関係形式に興味ある人々が、この問題を追及していくことが望まれる。コンピュータ技術の革新により、人の動きを三次元で捉えられるようになると、KMPの信頼性も増し利用しやすくなるだろう。(Kestenberg, J.A., Loman & Sossin 2018)

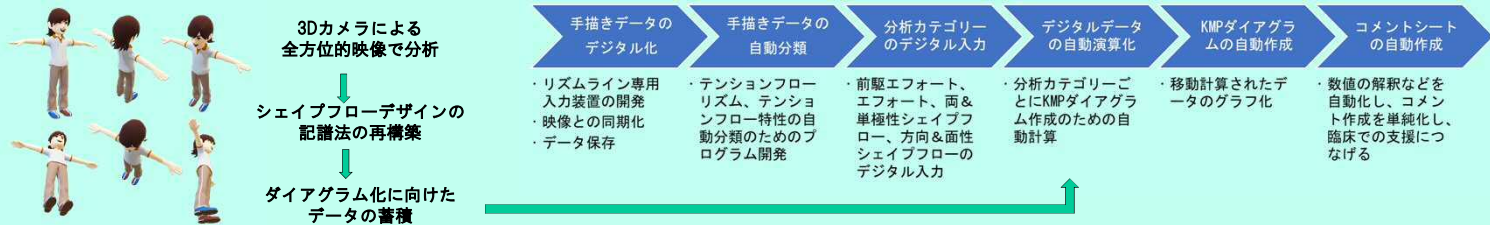


図1 KMP分析の全分析カテゴリーの自動化に向けた今後の流れ

KMP研究におけるITサポートの重要性

KMPは、1960年代に理論化され、半世紀以上に渡り、アメリカやドイツなどの母子支援のためのダンス・ムーブメントセラピーの場を中心に活用されてきた。技術習得に時間を要する記譜やその後の手作業での分析過程は複雑で、現在も一部の専門家の技量に頼らざるを得ない。しかし、新たにITの専門家から技術サポートを受けることにより、これまで不可能だったKMP分析の自動化へ向け研究が始まっている。この流れの中で、これまで分析カテゴリーとして除外されてきたシェイプフローデザインも、同様に自動化の流れの中に加えることが可能だと考えられる。

現在、発表者が共同研究として取り組んでいるKMPの他の分析カテゴリーの自動化への試みから、今後の全カテゴリー自動化への発展に向けた具体的な流れを図1にまとめた。手書きデータのデジタル化から分析カテゴリーのデジタル入力まで計画が進行中である。この流れは、KMP自動化と同時に3Dカメラによる映像記録を実現することで、シェイプフローデザインを分析カテゴリーに取り組み契機となり得る。本研究では、今後のKMP研究におけるITサポート重要性が改めて示唆された。今後、他の専門領域との協働が、KMPの汎用化へとつながっていくと思われる。

文献 1) Kestenberg, J.A., Loman, S., & Sossin, K.M. with invited contributors (2018): The Meaning of Movement Embodied Developmental, Clinical, and Cultural Perspectives of the Kestenberg Movement Profile, New York: Routledge. pp. 169-173.